

(国語科)

コミュニケーション能力の向上をめざす指導法の工夫

～国語科における学習活動を通して～

大阪市立南津守小学校 学力向上委員会 研究推進委員会

はじめに

本校では、学校教育目標「人間性豊かな子どもを育てる」の実現に向けて、「学力の向上」「道徳心・社会性の向上」「健康・体力の保持増進」を学校経営の重点として教育活動に励んでいる。「学力向上」の目標を達成するために、本校の子ども達にどのような力をつけることが必要なのか考えてきた。

平成 25 年度より、本校では国語科の研究に取り組んでいる。初年度では、児童の言語活動を活発にするためのワークシートやマインドマップの活用を図った。これにより、自分の考えを相手に伝えるためのツールとして活用することができ、児童の言語活動が活発になった。

それを受け、自分の考えや気持ちを相手に伝えたり、相手の考えを聞き、それをもとに自分の考えを伝えたりする能力を「コミュニケーション能力」と捉え、平成 26 年度より研究主題を「コミュニケーション能力の向上を目指す指導法の工夫」と設定した。この年は「話すこと・聞くこと」の領域に焦点を絞り研究を進めた。その結果、発達段階に応じた話し合いの形態や話型を取り入れることで、児童同士の話し合い活動が活発に行われるようになった。また、自分の考えを付箋などに短くまとめられるようにし、それをグループ化できるようなワークシートの工夫をした。そうすることで、児童が考えを発表する際の手掛かりとして活用することができた。

これらの成果を受け、平成 27 年度は、他領域からのアプローチによるコミュニケーション能力の育成の可能性を広げるべく、研究領域を「読むこと」に絞って研究を進めた。さらに、コミュニケーション能力を育成するためには、国語科の 3 領域「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」からのアプローチによって、自分の考えや思いを相手に伝えることができる子どもを育てることができるという研究仮説を立て、国語科の研究に取り組んだ。

1 発表内容

コミュニケーション能力の育成を果たすための研究の視点を以下の 2 点とする。

- ・伝え合う力の基礎的・基本的な技能の育成として、自分の考えを相手に伝えることができる指導法の工夫

- ・コミュニケーション能力を育成するための場の工夫

これらの視点の元、低・中・高・特別支援での研究内容を発表

(1) 低学年

①伝え合う力の基礎的・基本的な技能の育成として、自分の考えを相手に伝えることができる指導法の工夫

- ・「話し合い達人ブック」の活用
- ・「気持ち」ハート

②コミュニケーション能力を育成するための場の工夫

- ・ペアや少人数での話し合い
- ・発表会やクイズ大会

③成果

意見交流の場をより多く様々な場面を取り入れ、児童の言語活動の活性化を図ることにより、児童のコミュニケーション能力を高める実践となった。

(2) 中学年

①伝え合う力の基礎的・基本的な技能の育成として、自分の考えを相手に伝えることができる指導法の工夫

- ・伝えたいことを明確にする
- ・理由や根拠を本文から示す

- ・ 話型・ハンドサインの活用
 - ・ 書くポイント・読むポイントの意識
- ②コミュニケーション能力を育成するための場の工夫
- ・ ワークシートの工夫
 - ・ 話合いの形態

③成果

国語科の学習だけではなく、学校生活の様々な場面でも理由や根拠を明らかにして自分の意見を言うことができるようになってきた。また、児童が互いの意見を認め合い、違いやその良さを味わいながら表現し合うことができるようになってきている。

(3) 高学年

- ①伝え合う力の基礎的・基本的な技能の育成として、自分の考えを相手に伝えることができる指導法の工夫

ワークシートや付箋の活用

- ②コミュニケーション能力を育成するための場の工夫

3人グループにこだわった話合い

③成果

順序の工夫や適切な言葉の選択など、相手に伝わるように意識した話し方ができるようになってきた。また、友達と話す言葉をよく聞き考えたり、相手の表情から気持ちを読み取ったりしようとする児童が増えた。

「相手への意識」がぐっと高まった算数科や体育科など他教科においても、理由や根拠を示しながら自分の考え表現できるようになってきた。

(4) 特別支援（さわらび学級）

- ①伝え合う力の基礎的・基本的な技能の育成として、自分の考えを相手に伝えることができる指導法の工夫

・ ソーシャルスキルトレーニング

- ②コミュニケーション能力を育成するための場の工夫

- ・ 縦割りグループ
- ・ 課題別グループ
- ・ SST カード

③成果

肯定的な関わりをベースに学習を進めてきた。授業の振り返りシートで、自己評価の選択項目の「よく頑張ってきた」を選んだ児童が増え、コメント記入欄に前向きな意見を書く児童も増えた。少しずつではあるが、ソーシャルスキルを身に付け、変容している姿も見られた。

(5) 研究の成果と課題

児童の根拠を明らかにしながら考えを相手に伝える技能が向上した。また、相手の考えをよく聞き、それに基づいた自分の考えを表現する技能も向上した。つまり、児童のコミュニケーション能力の向上を果たすことができた。

課題としては、今回身に付けた能力を使って、自分自身が課題を解決することができる、探究的な学びの場、同じく仲間と共に学習課題を解決することができる協働的な学びの場をどのようにしていけばよいのか、研究していく。

2 指導好評

ワークシートが工夫されていた。教材文を一枚のプリントに示すのはわかりやすい。文章構成という理論を理解させやすい。探究的な学びを展開するための話合い活動の工夫がなされていた。6年間の系統性を明らかにした指導計画の必要性。特別支援教育の観点からの実践報告は、授業のユニバーサルデザイン化の観点からもとても意義深いものであった。